

II

内部質保証と評価

淑徳大学の内部質保証と自己点検・ 評価について	43
成果指標	44
外部評価	64

淑徳大学の内部質保証と自己点検・評価について

淑徳大学は、内部質保証及び自己点検・評価について、「淑徳大学 自己点検・評価の指針（以下「指針」）」を2020年3月に策定しました。この指針に基づき、2020年度より大学の内部質保証システムを見直し、図に示すように自己点検・評価を実施しています。

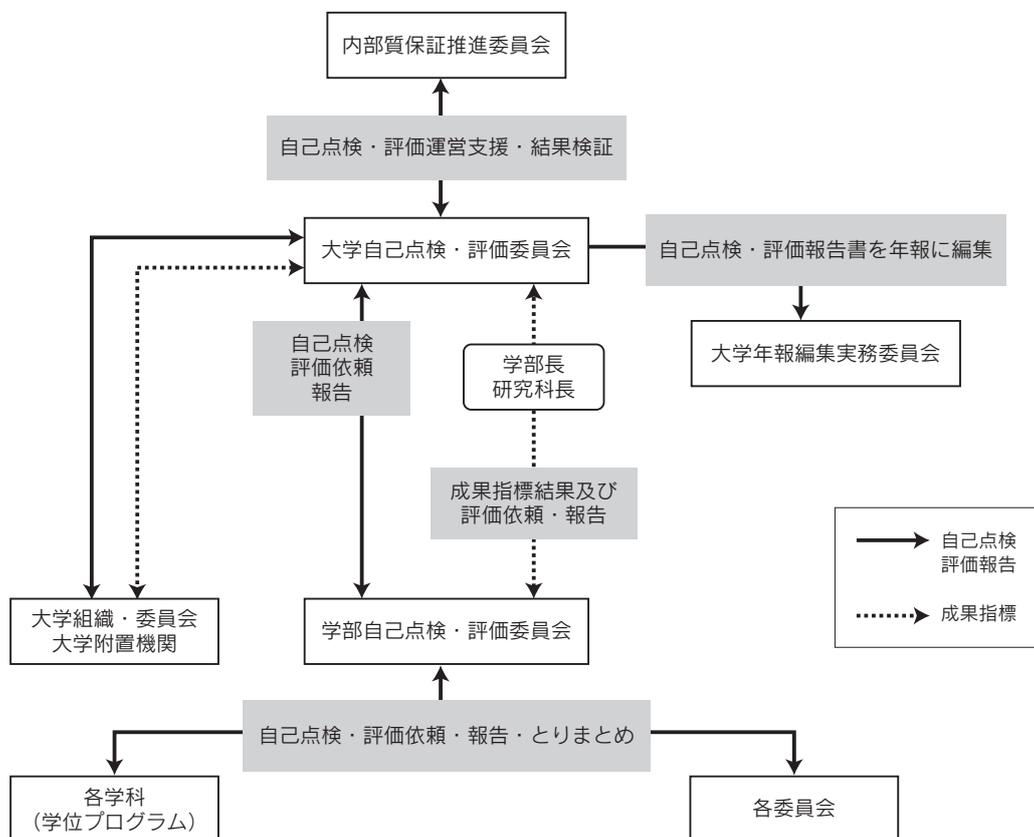


図 淑徳大学の自己点検・評価

また自己点検・評価は、3つの方針や、大学基準ごとの方針及びFD及びSDの方針を実現し、大学としての質を本学自らが保証するために行います。また3年後（2022年度末）に達成すべき定量的及び定性的な指標として成果指標が各組織に設定され、自己点検・評価と成果指標が連携して、自己点検・評価システムを構成しています。

本学の自己点検・評価は、大学基準（領域）ごとに自己点検・評価のサイクルを定めています。各部局や委員会では自分達が主に該当する大学基準の自己点検・評価サイクルにあわせて、自己点検・評価を行います。また自己点検・評価を行わない年度は、モニタリングを行うこととなります。

成 果 指 標

教育・研究・管理運営等に関する目標・成果指標

大学基準	実現目標	成果指標			備考	
		No	種類	成果指標・データ定義		3年後の指標
1. 理念・目的	淑徳大学の理解 淑徳大学の建学の精神と大学の歩みを理解し、自分の生き方を探求していく機会を提供する。	1-11	行動	<ul style="list-style-type: none"> 自校教育プログラムの実施と参加勸奨 	<ul style="list-style-type: none"> 自校教育プログラムの実施と参加勸奨を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 宗教行事、セミナーなどを、各キャンパスの実態に応じて設定する。
	内部質保証システムの確立の為、PDCAサイクルを適切に行い、不断的に教育改善や教育改革に取り組む。	2-11	行動	<ul style="list-style-type: none"> 各部署や委員会が、3つの方針や大学基準ごとの方針及び昨年度の課題に基づいたPDCA(点検評価)が適切かどうかの評価を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 各部署や委員会が行った自己点検評価の点検評価を実施する 	
3. 教育研究組織	—	—	—	—	—	—
4. 教育課程・学習成果	①基盤教育を検討・整備し、充実させる。	4-11	行動	<ul style="list-style-type: none"> 本学の基盤として学士力の要素を包摂する基盤教育の構築を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> 基盤教育の構成やカリキュラム、単位数の見直し、教育内容や教育方法、教育評価の基準と方法について検討する 	
	②学生の学習を促進するための取組みを充実する。	4-21	結果	<ul style="list-style-type: none"> 講義演習科目のアクティブ・ラーニングの実施 講義科目及び演習科目のシラバスの授業形態(あるいは授業回)にいずれかを含むものをALと定義 「PBL、反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク」 	<ul style="list-style-type: none"> アクティブ・ラーニングの導入率80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 学位プログラムごとに行動計画を策定し、取組を行う。

組織レベル	取組主体		2022年度	
			指標(結果)・取組	達成度*
キャンパス	千葉	総務部 教務(教学)委員会 教育向上委員会 初年次教育委員会	大学共通科目として「共生論」を開講している。新入生教務オリエンテーションにおいて、体系図によって本科目の位置づけを説明した(教務・教学委員会)。	良
	千葉第二	自校教育推進委員	新任オリエンテーションにて建学の精神に関する説明を行った。降誕会にも新入生・教員共に積極的に参加し、建学の精神に関する理解を深めた。新カリキュラムに向けて利他共生に関するシラバスの作成や大学歌に関する知識を深めるために新チャイムの作成を行った。	良
	埼玉	教務委員会	宗教行事への学生参加については、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止に係る対応として対面参加と遠隔参加のブレンド型を実施。教職員は原則対面、参加学生は学科毎に分割して実施した。対面における学生の参加率は、83.6%だった。	可
	東京	自校教育委員会	前年度に引き続き新入生セミナーで使用する自校教育動画を作成し新一年生全員が視聴した。各宗教行事は十分な感染防止対策をとり対面で実施した。	優
学部	総合福祉	学部自己点検評価委員会	3月23日に自己点検・評価委員会を開催し、委員会等より取り組み等についての報告を受け、2022年度の活動等についての点検・評価を行った。	良
	コミュニティ政策	学部自己点検評価委員会	3月23日に自己点検・評価委員会を開催し、委員会等より取り組み等についての報告を受け、2022年度の活動等についての点検・評価を行った。	良
	看護栄養	学部自己点検評価委員会	各委員会等による自己点検・評価結果の適切性について、評価を実施し、いずれの委員会等も適切にPDCAを実施していることを確認した。	良
	経営	学部自己点検評価委員会	各委員会等による自己点検・評価について学部自己点検評価委員会が集約・確認し、PDCA(点検評価)が適切に行われているかどうかをチェックして、必要があれば修正するよう依頼した。	優
	教育	学部自己点検評価委員会	本年度の「3つの方針」についての評価を学科会で実施するとともに、改訂された大学の「3つの方針」に基づいて、改めて学科としての「3つの方針」の見直し・改善に着手した。	良
	人文	学部自己点検評価委員会	各委員会などによる自己点検・評価について、学部自己点検評価委員会がPDCAをチェックし、点検評価を行った。	優
—	—	—	—	—
大学	高等教育研究開発センター		2022年3～4月にプレイズメントテスト、後学期12月～1月にアチーブメントテストを実施した。テストの分析結果はセンター内で共有されている。	良
学部	総合福祉	学部教育向上委員会	95.60%	S
	コミュニティ政策	学部教育向上委員会	91.8%	S
	看護栄養	教務委員会	82.4% シラバス作成時にアクティブラーニングの導入を明記し、積極的に取り入れることができた。	A
	経営	教務委員会	シラバスも含めアクティブラーニングの実施導入率は100%。完全対面授業(一部ブレンド型)を実施、双方向でのPBL型授業形態を担保した。	S
	教育	教務委員会	シラバスも含めアクティブラーニングの実施導入率は100%。完全対面授業を実施。	S
	人文	教学委員会	シラバス授業形態に「アクティブラーニング」と表記されている科目52%(153/294科目)	C

* 達成度の評価方法は結果目標はS～D、行動目標は優・良・可・不可。なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実施できていない場合は※とする。

大学基準	実現目標	成果指標			備考	
		No	種類	成果指標・データ定義 3年後の指標		
4. 教育課程・学習成果	②学生の学習を促進するための取組みを充実する。	4-22	結果	<ul style="list-style-type: none"> 学生の授業外学習時間の増加 学修行動調査の設問「授業課題、準備学習の時間の結果」を用いるまた数値は学部全体（調査実施全学年）を用いる 	<ul style="list-style-type: none"> [授業時間以外の学習時間]週10時間以上：15%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 学位プログラムごとに行動計画を策定し、取組を行う。
	③学習計画とそれに基づいた授業展開の効果を検証する。	4-31	行動	<ul style="list-style-type: none"> 学生授業アンケートのシラバス忠実度と授業満足度の検証の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートの検証の実施を委員会内で行う 	
		4-32	結果	<ul style="list-style-type: none"> 学生授業アンケートにおける到達目標の達成度 授業アンケート設問Ⅲ-1、肯定的回答は「大いにそう思う」とする 	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的回答 50%以上 	
	④教員のチームによる教育目標への取組みを行う。	4-41	行動	<ul style="list-style-type: none"> 教員のチームによる科目間連携を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 科目間連携の協議を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 科目間連携とは、履修体系図で示された各体系の科目間で目標・内容・評価等を連携する事を指す。 科目間連携の協議は学位プログラム内や同一科目複数開講でも行う。
	⑤カリキュラム・ポリシーやアセスメントポリシーに基づき、学修成果の実情把握と指標の開発によって教育成果を推進する。	4-51	行動	<ul style="list-style-type: none"> 学位プログラムごとの学修成果における測定指標・取組の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 学修成果を包括的に把握する指標や取組みの検討をする（DPやCPを踏まえたルーブリックの開発、ポートフォリオの活用や評価方法の開発など） 	

組織レベル	取組主体		2022年度	
			指標(結果)・取組	達成度*
学部	総合福祉	教務委員会	4.70%	D
	コミュニティ政策	教学委員会	3.30%	D
	看護栄養	教務委員会	12.8%	B
	経営	教務委員会	2.50%	D
	教育	教務委員会	2.70%	D
	人文	教学委員会	3.3% (学修等行動調査による)	D
学部	総合福祉	学部教育向上委員会	委員会内で検証し、評価が低かった科目について担当者からの聴き取りを行い、対応を依頼した。シラバス忠実度は94.2%、授業満足度は91%であった。	良
	コミュニティ政策	学部教育向上委員会	委員会内で検証し、評価が低かった科目について担当者からの聴き取りを行い、対応を依頼した。シラバス忠実度は94.3%、授業満足度は91.1%であった。	良
	看護栄養	学部教育向上委員会	授業アンケートの結果は、シラバス忠実度は97.9%、満足度は94.9%であった(前学期)。授業アンケートの結果は、シラバス忠実度は96.2%、満足度は92.8%であった(後学期)。	良
	経営	教育向上委員会	学生授業アンケートの結果について確認を実施した。 シラバス忠実度：前期94.8% 後期94.7% 授業満足度：前期91.6% 後期91.7%	良
	教育	教育向上委員会	学生授業アンケートの結果について確認を実施した。 シラバス忠実度：前期97.5% 後期96.7% 授業満足度：前期94.4% 後期93.7%	良
	人文	教育向上委員会	授業アンケートの検証の実施を委員会内で行った。	良
学部	総合福祉	学部教育向上委員会	前期32.0%、後期30.7%	B
	コミュニティ政策	学部教育向上委員会	前期29.7%、後期30.4%	B
	看護栄養	学部教育向上委員会	到達度は前学期30.4%、後学期26.1%であった。	C
	経営	教育向上委員会	到達目標の達成度(設問Ⅲ-1)：前期34.7% 後期37.5%	A
	教育	教育向上委員会	到達目標の達成度(設問Ⅲ-1)：前期46.8% 後期42.3%	A
	人文	教育向上委員会	前期27.4%/後期32.0% 前年度よりも2ポイント増加しているが、対面授業に移行していることもあり、個々の科目におけるアンケート内容の精査を行い、場合によっては教員に対するヒヤリング等の実施を検討したい。	C
学部	総合福祉	学部教育向上委員会	実習科目、演習科目について、各実習委員会での議論を通じて連携を実現している。	可
	コミュニティ政策	学部教育向上委員会	4つの学問領域内、および社会調査関連科目を中心に、連携を実施している。	可
	看護栄養	看護学科・栄養学科 教育向上委員会	(教育向上委員会)看護学科・栄養学科で垣根をなくした取り組みを教育向上委員会が主体となり、シラバス作成についてのFD研修会を通して科目間連携について再確認した。また、選択式FDでは科目間連携の緊密化を目的として栄養学科のシラバスに関するワークショップを開催した。	良
	経営	教務委員会	経営学科では、学科の科目体系のコアとなる5専攻の専攻主任を決め、次年度以降の更なる科目間連携の協議に向けた取り組みに着手した。観光経営学科では、6コースに分かれて開講している「観光経営研究Ⅱ」(3年前期)、「同Ⅲ」(3年後期)においては、総括担当教員を配し、評価手法・評価基準の統一を図った。	優
	教育	教務委員会、こども教育 学科長	3年次に履修する「教育課程論(幼)」で用いる「指導案フォーマット」や、「指導案作成のチェックリスト」を「教育実習事前事後指導」担当教諭らと共有し、活用することで、学生の学びの定着をはかっている。	優
	人文	教学委員会	科目間連携・同一科目複数開講の連携を目的として学科にて、科目内容、評価方法などについて検討・協議を実施した。	優
学科	社会福祉		<ul style="list-style-type: none"> DPやCPを踏まえた学科ルーブリックを3年次実習の実習前後および福祉系ビジネスインターンシップⅢのインターンシップ前後で活用していくことを方針としている。 国家試験課程の4年生を対象にポートフォリオを活用していき、学生の指導にあたっている。 	可
	教育福祉		学士ルーブリック、保育・教育実習ルーブリックを活用した学修指導及び教職指導の充実を目指している。またそれらを組み込んだ教育福祉学科ポートフォリオを活用して学生の指導にあたっている。	可

*達成度の評価方法は結果目標はS～D、行動目標は優・良・可・不可。なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実施できていない場合は※とする。

大学基準	実現目標	成果指標			備考	
		No	種類	成果指標・データ定義		3年後の指標
4. 教育課程・学習成果	⑥カリキュラム・ポリシーやアセスメントポリシーに基づき、学修成果の実情把握と指標の開発によって教育成果を推進する。	4-51	行動	<ul style="list-style-type: none"> 学位プログラムごとの学修成果における測定指標・取組の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 学修成果を包括的に把握する指標や取組みの検討をする（DPやCPを踏まえたルーブリックの開発、ポートフォリオの活用や評価方法の開発など） 	
		4-52	結果	<ul style="list-style-type: none"> ルーブリック、ポートフォリオ等やアセスメント結果を用いたリフレクション・学生指導等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 実施率 100%（実施者数/学生数）（維持目標） 	
5. 学生の受け入れ	①入学者数、在籍者数の適切な管理をする。	5-11	結果	<ul style="list-style-type: none"> 入学定員充足率（入学者数/入学定員×100） 	<ul style="list-style-type: none"> 毎年度定める入学定員超過率を遵守する（維持目標） 	<ul style="list-style-type: none"> 文部科学省の定員管理の方針に則り、向こう3年間の定員管理を忠実に履行していく 私立大学等経常費補助金の取扱い並びに大学等の設置等に係る認可基準を踏まえた入学定員充足率とする。
		5-12	結果	<ul style="list-style-type: none"> 収容定員充足率（在籍者数/収容定員×100） 	<ul style="list-style-type: none"> 収容定員充足率 100%以上105%未満（維持目標） 	
		5-13	結果	<ul style="list-style-type: none"> 留学生の在籍率（留学生/収容定員×100） 留学生及び社会人の定義は経常費補助金特別補助の定義を用いる 	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画等に基づいた留学生、社会人の割合が収容定員の3%以上（大学全体） 	

組織レベル	取組主体		2022年度	
			指標(結果)・取組	達成度*
学科	実践心理		学修成果における測定指標・取組みとして、各学年で取り組むべき内容を、ゼミやオリエンテーションを通じて明示的に伝えている。また、大学標準のルーブリックに加えて、データの収集や分析といった心理学科特有のスキルについても、オリジナルのルーブリックによって自己評価の機会を設けている。	可
	コミュニティ政策		実践科目ルーブリックは、一部の実践科目及びサービスラーニングセンタープログラムにおいて活用された。また、実践科目における学修成果を把握するために実践科目報告会をオンライン形式により実施した。	良
	看護		学修成果の可視化のため、学科内での共通理解を図りながら積極的活用を推進し、学生が活用しやすい方法について具体的な取り組みを始めた。	良
	栄養		全教員参加による、卒業研究評価・審査会を開催し、学修成果を高めることが出来た。	良
	経営		オンラインを併用した複数回にわたる面談と各種テーマに係るアンケート調査の実施により学修成果を含む学生の現状把握に取り組んだ。卒論ルーブリックの導入も引き続き実施した。	優
	観光経営		オンラインを併用した複数回にわたる面談と各種テーマに係るアンケート調査の実施により学修成果を含む学生の現状把握に取り組んだ。卒論ルーブリックの導入も引き続き実施した。	優
	こども教育(学科長)		履修カルテをポートフォリオとして活用し、毎学期、すべての学生においてセルフチェックを行ってきた。必要に応じて個別面談も実施している。	優
	表現		カリキュラム・ポリシーに基づく3コースの学修成果を明確にするため、各コースの専門教育科目の点検と最適化をはかり、履修体系を見直した。	優
	歴史		ルーブリックの成果検証のためのFDを学科内で実施した。	優
学科	社会福祉		ルーブリック 相談援助実習(科目「相談援助実習指導」履修学生を対象) 45% 科目「福祉系ビジネスインターンシップⅢ」履修学生を対象 100% ポートフォリオ 社会福祉士・精神保健福祉士課程の4年次学生を対象 100%	B
	教育福祉		ポートフォリオの確認実施率 前期89.3%、後期87.7%	B
	実践心理		45%(1年生全員および2年生の調査実習履修者)	D
	コミュニティ政策		11.2%(実践科目ルーブリック活用分)	D
	看護		実習ルーブリック(倫理的側面・看護過程)は計画通りの時期に実施できた。学士力ルーブリックにおいても、全学年に実施できた。	A
	栄養		卒業研究履修者は、100%達成した。報告・審査会では、複数教員の意見を取り入れ、内容の充実を図った。	A
	経営		100% 卒論ルーブリックも含め達成できた。	S
	観光経営		100% 卒論ルーブリックも含め達成できた。	S
	こども教育		100%(履修カルテに基づいた個別指導、卒論ルーブリック)	S
表現		100%。卒業研究ルーブリックも含め、達成できた。	S	
歴史		100% 学士力ルーブリック、学生指導などで対応。	S	
大学	大学アドミッションセンター		103%(入学者数:1,497名/入学定員:1,455名×100)	B
学部	総合福祉	学生厚生委員会	101.1%(1820/1800 在籍者数2022年5月1日現在)	S
	コミュニティ政策	学生厚生委員会	107.8%(410/380 在籍者数2022年5月1日現在)	S
	看護栄養	学生厚生委員会、各学科、看護学科学修支援委員会、栄養学科学修支援委員会	看護学科学修支援委員会として、学生の主体的な学びを促進するために、各学年で年間計画を立案し、低学年模試や夏季、春季課題など学修のモチベーションを高めた。また成績低迷者には各学年のアドバイザーと学修支援室と協働で支援した。また、学修支援プログラムを実施し、成績低迷者をフォローした。	A
	経営	学生厚生委員会	96.5%(772/800 在籍者数2022年5月1日現在)	A
	教育	学生厚生委員会	92.9%(511/550 在籍者数2022年5月1日現在)	A
	人文	教学委員会	106.4%(617/580 在籍者数2022年5月1日現在)	A
大学	大学アドミッションセンター		1.09%(留学生:56名/収容定員:5,115名×100)	D

*達成度の評価方法は結果目標はS~D、行動目標は優・良・可・不可。なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実施できていない場合は※とする。

大学基準	実現目標	成果指標			備考	
		No	種類	成果指標・データ定義 3年後の指標		
6. 教員・教員組織	①教育力の向上のために組織的な対応を行う。	6-11	行動	<ul style="list-style-type: none"> 教育内容等の改善を図るためのFDの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートに関するFD、アセスメントに関するFD、事後学習レポートに関するFD、学生の自己の学修成果のリフレクションに関するFD等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 淑徳大学2019年～2021年FD・SD等計画に基づき、次のFDを実施する(2019.4大学協議会) ※2022年度のFD等の計画は未策定。 学位プログラムごとに行動計画を策定し、実施する。
		6-12	行動	<ul style="list-style-type: none"> 教育内容等の改善を図るためのFDの実施 	<ul style="list-style-type: none"> シラバス作成に関するFD、履修モデルの有効性の検証と課題整理に関するFD、カリキュラムポリシーに基づく教育方法及び成績評価の点検評価に関するFD、間接的学修評価と学生の成長変化に関するFD、ICTを用いた双方向授業に関するFD、アセスメントとディプロマ・ポリシーに関するFD等の実施 	
		6-13	結果	<ul style="list-style-type: none"> FDの参加率 	<ul style="list-style-type: none"> FD参加率 100% (維持目標) 	
	②研究成果の教育と社会への還元を推進する。	6-21	結果	<ul style="list-style-type: none"> 担当科目に関わる研究業績等(大学の研究業績管理システムに入力したもの、もしくは大学のホームページに掲載されたもの) 	<ul style="list-style-type: none"> 担当科目に関わる論文又は社会への公表 年2件相当以上 	【備考】 研究業績等事例：著書、担当科目の教科書、学術論文、教育実践記録(論文形式のもの)、研究紀要(学部紀要、大学附置機関等の年次報告書)における論文、調査報告書、科研費報告書等、学会発表、翻訳、市民向け講演、公的機関における講演・講義、新聞・テレビ等メディアにおける報道、その他広く社会への還元と位置づけられる事項。またそれらの事実を確認できること
	③外部研究資金の導入により専門教育の充実を図る。	6-31	結果	<ul style="list-style-type: none"> 外部研究資金に関する説明会参加者数参加率 	<ul style="list-style-type: none"> 教員参加率50%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 各学部の2019年度実績をもとに、3年後の指標を設定し、学部自己点検評価委員会が確認を行う。
		6-32	結果	<ul style="list-style-type: none"> 外部研究資金の申請件数 	<ul style="list-style-type: none"> 科研費等申請件数 20件以上(学部単位) 	
					<ul style="list-style-type: none"> 科研費等申請件数 7件以上(学部単位) 	
					<ul style="list-style-type: none"> 科研費等申請件数 5件以上(学部単位) 	
					<ul style="list-style-type: none"> 科研費等申請件数 5件以上(学部単位) 	
					<ul style="list-style-type: none"> 科研費等申請件数 6件以上(学部単位) 	
<ul style="list-style-type: none"> 科研費等申請件数 15件以上(学部単位) 						

組織レベル	取組主体		2022年度	
			指標(結果)・取組	達成度*
大学	高等教育研究開発センター		9月1日にオンラインの形式にて実施した。共通テーマは、「成績評価の厳格化・客観化に向けて一本学のGPA実体と再整備自公の検討―」	良
学部	総合福祉	学部教育向上委員会	9月10日の全教員会で「新入生調査の結果と今後の対応」をテーマとして第1回FDを実施した。3月16日に「学習意欲が高い学生への教育方法」をテーマとして第2回FDを実施した。	良
	コミュニティ政策	学部教育向上委員会	9月10日の全教員会で「新入生調査の結果と今後の対応」をテーマとして第1回FDを実施した。3月16日に「学習意欲が高い学生への教育方法」をテーマとして第2回FDを実施した。	良
	看護栄養	学部教育向上委員会	目標に掲げた4項目のFDを実施できた。そのうちの1項目は新規にデザインした選択式FDで、教員の負担を限定しつつ幅広いニーズに応えることが可能となった。	優
	経営	教育向上委員会	全6回開催し、指標に掲げた6つのうち4つを実施した。学部FD全4回・全体FD全2回、計6回実施した。学部FDの各テーマで最新は次の通り「ChatGPTが学部教育に与える影響」学部FD4回 全体FD2回	優
	教育	教育向上委員会	全6回開催し、指標に掲げた6つのうち4つを実施した。学部FD4回 全体FD2回	優
	人文	教育向上委員会	全4回(コロナ禍における対面授業・2022年度新入生調査の結果と人文学部の特徴・シラバス作成・メディアを使った授業のあり方や授業デザインについて)を実施した。4つめのFDは人文学部独自の試みで実践的な内容である。	優
学部	総合福祉	学部教育向上委員会	100%	S
	コミュニティ政策	学部教育向上委員会	100%	S
	看護栄養	学部教育向上委員会	100%(オンデマンド視聴による参加を含む)	S
	経営	教育向上委員会	100%	S
	教育	教育向上委員会	100%	S
	人文	教育向上委員会	100%	S
学部	総合福祉	学部長	科学研究費等の外部研究助成制度を積極的に活用し研究を進めていく教員がいる一方で、担当科目に関わる学術論文他の活字業績を年間2本積み増していくことが達成できなかった教員がいた。	D
	コミュニティ政策	学部長	13件	C
	看護栄養	学部長	2件以上59.0%、1件20.5%、0件20.5%	B
	経営	学部長	専任教員18人で、活字業績は50本であった。目標の36本を達成した。学部内・学科内における教員間連携がさらに進み、共著の積み増しが複数みられた。	S
	教育	学部長・こども教育学科 学科長	担当科目に係る研究業績の公表については、2件以上が13名(100%)であった。しかし、活字業績の本数については、個人差が見られた。	A
	人文	学部長	専任教員16名 論文・著書等の公表、年間2件以上9名(56.25%)、1件3名(18.75%)、0件4名(25%/公表予定なし)	A
大学	教育研究支援センター		(100%)コロナのため説明会は実施せず、全教員に資料配布のみ行った。	※
学部	総合福祉	学部	科研費(6件)	D
	コミュニティ政策	学部	科研費(1件)/外部資金(2件)	D
	看護栄養	学部長	2023年度科研応募件数は主任研究者のみで11件と例年よりも多い数であった。このほか、分担者としての応募も3件あった。	A
	経営	学部	科研費 申請件数1件。(科研費新規採択1件(分担金:外山先生)・科研費代表継続2件(千葉先生、外山先生) ※齋藤鉄也先生は延長(2022年度交付なし)・科研費分担継続1件(山脇先生))	C
	教育	学部	科研費新規申請1件	C
	人文	学部	科研費新規申請(代表3件、分担3件)	B

*達成度の評価方法は結果目標はS～D、行動目標は優・良・可・不可。なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実施できていない場合は※とする。

大学基準	実現目標	成果指標			備考	
		No	種類	成果指標・データ定義		3年後の指標
6. 教員・教員組織	③外部研究資金の導入により専門教育の充実を図る。	6-33	結果	<ul style="list-style-type: none"> 外部研究資金の獲得件数 	<ul style="list-style-type: none"> 科研費等採択件数 10件以上 (学部単位) 科研費等採択件数 3件以上 (学部単位) 科研費等採択件数 3件以上 (学部単位) 科研費等採択件数 2件以上 (学部単位) 科研費等採択件数 3件以上 (学部単位) 科研費等採択件数 8件以上 (学部単位) 	<ul style="list-style-type: none"> 各学部の2019年度実績をもとに、3年後の指標を設定し、学部自己点検評価委員会が確認を行う。
		6-34	結果	<ul style="list-style-type: none"> 公的機関、地域団体、企業等からの研究資金を伴う委託研究または共同研究等 (受託研究件数 + 共同研究件数) 	<ul style="list-style-type: none"> 15件以上 (内訳：受託研究件数3件以上・共同研究件数12件以上) 10件以上 (内訳：受託研究件数5件以上・共同研究件数5件以上) 3件以上 (内訳：受託研究件数2件以上・共同研究件数1件以上) 2件以上 (内訳：受託研究件数1件以上・共同研究件数1件以上) 4件以上 (内訳：受託研究件数2件以上・共同研究件数2件以上) 受託研究件数 1件以上・共同研究件数 1件以上 	
7. 学生支援	①修学支援を充実する。	7-11	行動	<ul style="list-style-type: none"> 学生の個別状況に応じた修学支援体制の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 障がいのある学生に対する修学支援体制の確立 	

組織レベル	取組主体		2022年度	
			指標(結果)・取組	達成度*
学部	総合福祉	学部	科研費(4件)	D
	コミュニティ政策	学部	科研費(0件)／外部資金(1件)	B
	看護栄養	学部長	2023年度新規採択件数は4件であったが、うち、2名は2022年度末で退職となったため、実質的には2件の採択となった。分担者としての新規採択は1件であった。	A
	経営	学部	科研費採択は継続4件・新規1件、計5件。学長裁量の競争的資金(2023年度教育改革推進事業助成費等)3件採択	S
	教育	学部	科研費分担新規採択1件、科研費代表継続3件、科研費分担継続1件	B
	人文	学部	科研費新規採択(代表0件、分担1件)、継続(代表5件、分担5件)	A
学部	総合福祉	学部総務	0件	D
	コミュニティ政策	学部総務	3件	D
	看護栄養	学部長	株式会社マリ、住友理工株式会社、常総市幸せ長寿課(委託研究3件)	B
	経営	学部	0件	D
	教育	学部	継続2件(厚生労働科学研究費補助金(食品の安全確保推進研究事業)共同研究、東京都港区教育委員会『港区教育史』委託研究)	C
	人文	学部	受託研究1件(酒々井町)	B
キャンパス	千葉	教務委員会 教学委員会 学生厚生委員会	全面対面授業となりに出席不良学生抽出基準に基づき学生厚生委員会を中心に実施をしてきた。その際に学生相談センターも連携し、多様な面談方法を確立し、アドバイザーとの連携がはかれる環境を構築した。さらに昨年度に引き続き、面談結果報告書も電子化し配布、提出書類の電子がを定着させた(学生厚生員会、学生相談センター)。 障がい学生本人から提出された修学支援申請書(配慮願)をもとに教務・教学委員長・アドバイザーとの面談を実施した上で、必要な配慮を検討し、その結果を担当教員に周知を行った。全ての教員に対して、障がい学生のための環境整備への協力を依頼した。(教務・教学委員会)	可
	千葉第二	学生厚生委員会(学生支援相談担当者会)	精神症状、腹部症状のため、合理的な配慮を要望した複数の学生において、学生支援・相談担当者会を開催した上で席次の変更などの対応を実施した。また、2021年度と同様に、障がい学生(視覚障害、高次脳機能障害)に対して、学校医、保健室担当者、アドバイザー教員が協働して合理的な配慮を含めた支援を継続実施した。同時にコロナ禍を考慮したスマートフォンからの学生相談申し込み、換気ができるセミナー室で対面相談を継続して実施した。	良
	埼玉	学習支援センター	聴覚障がい学生1名が2年生に進級し、サポートを継続している。学生総合相談支援室と連携を図りながら支援体制を構築している。差別解消のガイドラインを配布、共有し、勉強会を実施している。授業は遠隔文字通訳システムT-TACK Captionを活用している。既存の学生が新規サポート学生の支援をしており、新規学生が活躍をし始めている。学生間の連携もスムーズにでき、持続可能な体制が構築され、運用も問題なく行われている。Wi-Fi環境が教室によって異なるため、Wi-Fiの環境整備が望まれる。	優
	東京	教学委員会	障がいを理由とする差別の解消の推進に関する規程ならびにガイドラインに基づき、修学支援体制を組織している。 入学希望者に対し複数回面談を行い、対応を検討した。	優

*達成度の評価方法は結果目標はS～D、行動目標は優・良・可・不可。なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実施できていない場合は※とする。

大学基準	実現目標	成果指標			備考	
		No	種類	成果指標・データ定義		3年後の指標
7. 学生支援	①修学支援を充実する。	7-12	行動	<ul style="list-style-type: none"> 学習の継続に困難を抱える学生（成績不振学生、休学、留年者、退学希望者）の状況把握と対応の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 授業欠席者の把握とそのフォローを行う 	
		7-13	結果		<ul style="list-style-type: none"> 退学・除籍率 3%未満 	
	②生活支援を充実する。	7-21	行動	<ul style="list-style-type: none"> 学生の心身の健康、保健衛生及び安全への配慮対策の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 心身の悩ごとを抱える学生への相談対応 	

組織レベル	取組主体		2022年度	
			指標(結果)・取組	達成度*
学部	総合福祉	学生厚生委員会、教務委員会、学生相談センター	面談実施率が高くない原因の確認が必要だが、報告書未提出が少なからずいるためと考えられる。面談を実施しても報告書が未提出の教員、また学生の状況を十分に把握できている場合はアドバイザー教員の判断で面談不要としているが、その旨が未提出の場合もあり、そうした理由で面談実施率は下がっていると考えられる。しかし、20年度以降このような方法ながら退学率は上がっていないため面談実施率だけに一喜一憂しないようにしたい(学生厚生委員会、学生相談センター)。 学生厚生委員会と出席不良学生の情報を共有することで、アドバイザーが指導等を実施しやすくなるよう支援を行った(教務委員会)。	可
	コミュニティ政策	学生厚生委員会、教学委員会、学生相談センター	面談実施率が高くない原因の確認が必要だが、報告書未提出が少なからずいるためと考えられる。面談を実施しても報告書が未提出の教員、また学生の状況を十分に把握できている場合はアドバイザー教員の判断で面談不要としているが、その旨が未提出の場合もあり、そうした理由で面談実施率は下がっていると考えられる。しかし、20年度以降このような方法ながら退学率は上がっていないため面談実施率だけに一喜一憂しないようにしたい(学生厚生委員会、学生相談センター)。	可
	看護栄養	教務委員会、各学科	(教務)各担当教員に対して、学生の授業欠席回数の定期的把握を進め、出席状況がおもわしくない学生には、授業担当教員からの指導に加え、受験資格喪失前にアドバイザー教員及び保証人(等)に出席状況の連絡を行っている。 (看護)各科目担当教員は欠席回数の多い学生はアドバイザー教員と共有し、アドバイザー教員を中心に早期に学生に対応する。また臨地実習に関連する学生の情報共有は、適宜学科会議において行っている。 (栄養)毎月、学年ごと学生の動向を報告、共有することで対応を検討を行っている。	良
	経営	学習支援センター	アドバイザー、学生総合相談支援室等の関連部署が連携して欠席過多学生の把握、個別フォローを実施。措置退学対象者へは学部長面談を実施して、退学率の削減に努めた。	優
	教育	学習支援センター	毎月の学科会で欠席が多い学生、授業に困難を抱える学生に関する情報を把握した。その情報をもとに、アドバイザーや学生総合相談支援室等の関連部署が連携して学生へのフォローアップを実施。	良
	人文	教学委員会	成績不振者(及び保証人)との面談、授業欠席者への個別対応を実施。 1年次生全員に、クラスアワーなどを利用し、対面での個別面談を実施した。2年次生はアドバイザー、3,4年次生には各ゼミにて、必要に応じて随時個別の面談を行った。	優
学部	総合福祉	学生厚生委員会、教務委員会、学生相談センター	1.26% (23/1820) 分母は2022年5月1日、分子は2023年3月教授会承認数(学生厚生委員会)	S
	コミュニティ政策	学生厚生委員会、教学委員会、学生相談センター	1.21% (5/410) 分母は2022年5月1日、分子は2023年3月教授会承認数(学生厚生委員会)	S
	看護栄養	各学科、学生厚生委員会、看護学科学修支援委員会、栄養学科学修委員会	退学者・除籍者 学部2.46% (18/732)、看護学科2.33% (10/429)、栄養学科2.64% (8/303) ※2023年3月31日現在	S
	経営	学習支援センター	学部3.63% (28/772)、経営学科4.37% (19/435)、観光経営学科2.67% (9/337)	A
	教育	学習支援センター	2.15% (11/511)	S
	人文	教学委員会	1.8% (11/617) 分母は2022年5月1日、分子は2023年3月教授会承認数(2023年4月25日遡及退学者も含む)	S
キャンパス、学部	千葉	学生厚生委員会、学生相談センター	学生のニーズに合わせて、常設という形で、対面、メール相談、電話相談、Zoomによる相談を併用した相談体制を本格的に確立することができた。	可
	千葉第二	学生厚生委員会(学生支援相談担当者)	前年度同様に学校医、保健室担当者、アドバイザー教員、カウンセラーが協働して、学生相談に加えて、精神面を含めた保健衛生分野でのサポートを進めた。COVID-19蔓延化に伴う電子メール活用ならびにオンライン面談も継続実施した。加えて4キャンパス共通の「学生総合相談支援体制」設立に寄与すべく、ガイドラインや運用マニュアルの作成の議論にも関与した。	良
	埼玉	学生厚生委員会	アドバイザー、学生総合相談支援室等の関連部署が連携し、対面ならびにオンラインも活用しながら学生と個別面談等の対応を行った。相談件数 5,165件(内訳:学生総合相談支援室140件・保健相談室1,088件・カウンセラー658件・キャンパスソーシャルワーカー3,279件)	優

*達成度の評価方法は結果目標はS～D、行動目標は優・良・可・不可。なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実施できていない場合は※とする。

大学基準	実現目標	成果指標			備考		
		No	種類	成果指標・データ定義		3年後の指標	
7. 学生支援	②生活支援を充実する。	7-21	行動	<ul style="list-style-type: none"> 学生の心身の健康、保健衛生及び安全への配慮対策の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 心身の悩ごとを抱える学生への相談対応 	<ul style="list-style-type: none"> 欠席時、研修会記録(ビデオ)等を見た上でのレポート提出含む 	
		7-22	結果	<ul style="list-style-type: none"> ハラスメント防止対策 	<ul style="list-style-type: none"> ハラスメント研修参加率100%(維持目標) 		
	③進路支援を充実する。	7-31	行動	<ul style="list-style-type: none"> 進路選択に関わる支援やガイダンスの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 年間実施回数 20回以上 	<ul style="list-style-type: none"> 年間実施回数 看護学科2回以上、栄養学科10回以上 年間実施回数 7回以上 年間実施回数30回以上、他3・4年生全員面談実施 	
					<ul style="list-style-type: none"> 年間実施回数 看護学科2回以上、栄養学科10回以上 		
					<ul style="list-style-type: none"> 年間実施回数 7回以上 		
		7-32	結果	<ul style="list-style-type: none"> 就職率 	<ul style="list-style-type: none"> (各学科)就職率 90%以上(就職者数は学校基本調査を用いる) 「就職者」+「進学者のうち就職している者」/「卒業者」-「大学院研究科等進学者」+「進学者のうち就職している者」(維持目標) 	<ul style="list-style-type: none"> 本指標の公表については大学の方針に従う 	
		7-33	結果	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得率・合格率(国家資格含む) 	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得率・合格率(現役生) 社会福祉士:60%、精神保健福祉士:100%、中学校教諭(社会):100%、特別支援学校教諭:100% 	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得率・合格率100%(維持目標) 資格取得率・合格率該当なし。 資格取得率・合格率該当なし。ただし、公務員の合格率について卒業生の10%を目標とする。(維持目標) 	
<ul style="list-style-type: none"> 資格取得率・合格率100%(維持目標) 							
<ul style="list-style-type: none"> 資格取得率・合格率該当なし。 							
<ul style="list-style-type: none"> 資格取得率・合格率該当なし。ただし、公務員の合格率について卒業生の10%を目標とする。(維持目標) 							

組織レベル	取組主体		2022年度	
			指標(結果)・取組	達成度*
キャンパス、学部	東京	教学委員会	アドバイザー教員、ゼミ担当教員による個別面談により、状況把握に努めた。必要に応じて学生相談室への連携も行った。「健康観察記録ノート」を全学生に配布、日々の健康観察を記録することを求め、健康管理への自覚を促した。	優
キャンパス	千葉	ハラスメント防止委員会	年2回の研修参加率100%	S
	千葉第二	ハラスメント防止委員会	参加率100%達成した。	S
	埼玉	ハラスメント防止委員会	年2回の研修参加率ならびにアンケート回答率100%	S
	東京	ハラスメント防止委員会	100% 対象教員全員が年2回の研修に参加した。	S
キャンパス	千葉	千葉キャンパスキャリア支援センター、キャリア支援委員会、総合キャリアセンター	61回	優
	千葉第二	看護学科キャリア支援委員会、栄養学科キャリア支援委員会	看護学科では就職個別相談会、千葉東病院交流会、マナー講座、国試・就活語る会を実施した。 栄養学科では就活セミナー、面談、おしごとセミナー、キャリア国試懇談会などのべ15回以上開催した。	優
	埼玉	キャリア支援センター	進路支援に関するガイダンス等を以下の通り実施。 4年生向け；学内合同企業説明会(4月・5月・6月)、埼玉県16大学合同企業説明会(8月)、全員面談(3月～4月)、また1月には進路未決定者を対象とした説明会をハローワーク所沢の就職支援ナビゲーターの協力をいただき実施。 3年生向け；全員面談(経営5月～6月、教育10月～12月)、就勝合宿(6月)、就活シミュレーション(11月)、学内ジョブフェア(12月)、ステップアップ講座(2月)、SPI対策講座(2月) 1.2年生向け；キャリアセミナー(1月)	優
	東京	キャリア支援委員会	60回(年間ガイダンス回数)/3年生全局面談：2年次の春休みに前倒して実施/4年生面談：4月および9月に実施	優
学部	総合福祉	千葉キャンパスキャリア支援センター、キャリア支援委員会、総合キャリアセンター	卒業生の88.9%。就職希望者の98.6%。	S
	コミュニティ政策	千葉キャンパスキャリア支援センター	卒業生の83.3%。就職希望者の97.2%。	S
	看護栄養	看護学科キャリア支援委員会、栄養学科キャリア支援委員会	栄養学科就職率94.7%(卒業生77名中：就職72名・就職を希望しない者4名、進学者1名) 看護学科就職率90.5%(卒業生99名中：就職86名・就職を希望しない者1名、進学者4名、就職準備中7名)	A
	経営	キャリア支援センター	(2023年4月10日判明分)卒業予定者数の95.8%(経営学科92.6%・観光経営学科98.9%)、就職希望者の98.4%(経営学科96.7%・観光経営学科100%)	S
	教育	キャリア支援センター、教員・保育士養成支援センター	(2023年4月10日判明分)就職志望者の100%(93/93名) 小学校教諭38名、幼稚園教諭22名(含：公務員幼稚園教諭)、保育士26名(含：公務員保育士)、保育教諭2名、一般企業等5名	S
	人文	キャリア支援委員会	卒業生の83.3%、就職希望者の97.3%(歴史学科98.1%、表現学科96.7%)	S
学科	社会福祉		社会福祉士92名 76.7%(目標60%) 精神保健福祉士10名 100%(目標100%) 中学校教諭(社会科)1名 50%(目標100%) 特別支援学校教諭 0名0%(目標100%)	B
	教育福祉		資格取得率 教員免許・保育士資格88.1% [内訳 保育士43/45人中・幼43/46人中・小42/52人中・中保体17/17人中・高保体17/17人中・特支56/65人中・養護19/27人中] (目標100%) (目標(千葉県2022年度 小・中高保体・養護・特支平均倍率3.5倍)28.6%×1.5=42.9%) 公務員 100% [16/16名中] (目標(千葉市保育職2022年度2.7倍)37.0%×1.5=55.5%)	B
	実践心理		学部卒で取得できる心理専門職の資格はないため、指標・取り組みに関しては該当なし。	—
	コミュニティ政策		指標・取り組みに関しては該当なし。ただし、公務員合格について、2022年度は卒業生中12%(10名/83名)	A

*達成度の評価方法は結果目標はS～D、行動目標は優・良・可・不可。なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実施できていない場合は※とする。

大学基準	実現目標	成果指標				備考
		No	種類	成果指標・データ定義	3年後の指標	
7. 学生支援	③進路支援を充実する。	7-33	結果	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得率・合格率(国家資格含む) 	<ul style="list-style-type: none"> 国家試験合格率(看護師)100%(保健師)100% 管理栄養士国家試験合格率95%程度以上(管理栄養士養成校平均合格率以上) フードスペシャリスト合格率90%程度以上(全国平均合格率以上) 資格取得率・合格率70%(維持目標) 資格取得率・合格率70%(維持目標) 資格取得率 95%・採用試験等合格率 70%(維持目標) 該当なし 資格取得率・合格率100%(維持目標) 	
	④正課外活動に対する支援を充実する。	7-41	行動	<ul style="list-style-type: none"> 部活・サークル活動支援 	<ul style="list-style-type: none"> 支援の充実 	
8. 教育研究等環境	①防災及びバリアフリー等への対応を推進し、安全で快適なキャンパス環境の整備を行う。	8-11	行動	<ul style="list-style-type: none"> 災害発生時の安否確認方法(学生、教職員)の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 災害発生時の安否確認方法(学生、教職員)の検討 	
		8-12	結果	<ul style="list-style-type: none"> 防災や災害時対応の意識向上のための研修実施 	<ul style="list-style-type: none"> 防災意識や災害時対応に関する研修実施(年1回以上) 	

組織レベル	取組主体		2022年度	
			指標(結果)・取組	達成度*
学科	看護学科、看護学科キャリア支援委員会、看護学科学修支援委員会		看護学科学修支援委員会として、国家試験合格率100%を目指して学生の主体的な学びを促進するために、各学年で年間計画を立案し、低学年模試や夏季、春季課題など学修のモチベーションを高めた。また成績低迷者には各学年のアドバイザーと学修支援室と協働で支援した。 看護師国家試験合格率89.9%、保健師国家試験合格率100%	A
	栄養学科、栄養学科キャリア支援委員会、栄養学科学修支援委員会		(キャリア支援室委員会：栄養)1年次の前後期、各学年の長期休みを利用した学修支援プログラムを実施した。管理栄養士国家試験合格率73.2%(確定次第記載)、フードスペシャリスト合格率75.8% (学修支援委員会：栄養)1年次の前後期、各学年の長期休みを利用した学修支援プログラムを実施した。	A
	経営		MOS検定(Word33名合格/33名受験、ExcelExpert10名合格/11名受験、Excel8名合格/8名受験)、宅地建物取引士0名合格/1名受験。	A
	観光経営		MOS検定(Word16名合格/18名受験、ExcelExpert2名合格/2名受験)、秘書検定2級1名合格/1名受験、宅地建物取引士0名合格/1名受験、アシスタントウェディングプランナー検定(AWP検定)39名合格/55名受験、旅行業務取扱管理者(国内)7名合格/13名受験、旅行業務取扱管理者(総合)1名合格/3名受験。	C
	こども教育(学科長)		保育士資格取得率98%(48/49名) 公務員保育士採用試験合格率81.8%(9/11名) 公務員幼稚園教諭採用試験合格率100%(1/1名) 小学校教員採用試験合格率87.2%(34/39名)	S
	表現		該当なし	—
	歴史		100% 資格に必要な単位を取得した学生。	S
キャンパス	千葉	学生厚生委員会 正課外教育委員会	感染対策を継続しクラスター等の発生を0件に抑え込みつつ、全41団体が活動することができたものの、学園祭で対面での出展団体数は8団体程度にとどまった。新年度に向けて2023年3月1日より活動条件の緩和に取り組んだ(学生厚生委員会)	優
	千葉第二	学生厚生委員会	感染対策を実施しつつ、ボランティア講座等正課外活動が実施された。	良
	埼玉	学生厚生委員会	「感染防止のための誓約書・活動計画書」を提出させることで、団体内の感染症対策の確立を支援し、変動する社会情勢下も安定して活動を継続することができた。 ●クラブ・サークル紹介イベントをオンライン形式で開催した。 ●感染対策を徹底し、文化系団体の活躍の場をコロナ禍以前と同等に設けることができた。 ●活動申請等をオンライン化・簡便化し、課外活動にあたっての学生の負担を軽減した。 ●活動に必要な情報をガイドラインに集約し、団体が適切に情報を把握できる環境を整備することで、学生の負担を軽減した。	優
	東京	教学委員会	感染症対策をおこなった上で、ほぼコロナ禍前の平常時の活動を取り戻しつつある。大学イベント、学園祭にて対面での活動をおこなった。	優
キャンパス	千葉	総務部	職員については、6月26日に電話による緊急連絡訓練を行った。学生については、S-navi(個別の場合は電話)を使用して安否確認を行うが、2022年度の訓練は未実施。	可
	千葉第二	キャンパス安全対策本部(事務部長)	学生は、S-Naviを利用した安否確認方法を整備。教職員は、緊急連絡網(電話)を利用した安否確認方法を整備。	良
	埼玉	キャンパス安全対策実施本部	緊急連絡網の整備とともに毎年点検を行っている。毎月開催のキャンパス安全対策実施本部会議により状況の把握・共有を強化している。	優
	東京	総務	教職員については、災害発生時の緊急連絡の予行演習を7月に実施した。学生の安否確認訓練は未実施。	可
キャンパス	千葉	総務部	1回 9月29日に、千葉キャンパス教職員を対象に「避難誘導」「消火器体験」の訓練を行った。	A
	千葉第二	キャンパス安全対策本部(事務部長)	2022年5月に、教職員を対象とした緊急連絡網の訓練を実施。 2022年6月に、教職員を対象とした防災訓練を実施。 2022年11月に、教職員および学生を対象とした防災訓練を実施。	A
	埼玉	キャンパス安全対策実施本部	避難・通報訓練、初期消火訓練として、9月15日に学生、教職員で実施した。併せて災害救助用備蓄食料を配布した。	優
	東京	総務	3月23日に防災避難訓練を実施。避難の手順、経路を確認。	A

*達成度の評価方法は結果目標はS～D、行動目標は優・良・可・不可。なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実施できていない場合は※とする。

大学基準	実現目標	成果指標			備考	
		No	種類	成果指標・データ定義 3年後の指標		
8. 教育研究等環境	①防災及びバリアフリー等への対応を推進し、安全で快適なキャンパス環境の整備を行う。	8-13	結果	<ul style="list-style-type: none"> 災害備蓄品の大学基準設定と備蓄率 	<ul style="list-style-type: none"> 各市町村が定める備蓄率100%（維持目標） 	
	②情報通信技術（ICTの環境）の整備、ネットワーク機器等の充実に努めるとともに、情報倫理の確立に取り組む。	8-21	結果	<ul style="list-style-type: none"> 学生に対する情報倫理教育の実施回数 	<ul style="list-style-type: none"> 新年度オリエンテーション（SNS使用）及び情報関連正課授業における情報倫理教育の実施（1年生各1回以上） 	
	③学生の自主学習や主体的な学習を促進するための取組みを充実する。	8-31	結果	<ul style="list-style-type: none"> ラーニングコモンズの利用（学修等行動調査設問Q4（1・3年向け）Q9・（2・4年向け）Q7で利用経験（月1、2回～毎日）がある学生の割合 	<ul style="list-style-type: none"> ラーニングコモンズ（フリースペース）の利用率90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 東京キャンパスはフリースペースとする。
		8-32	結果	<ul style="list-style-type: none"> WEB学習システムの利用（学修等行動調査設問を活用）（1・3年向け）Q10・（2・4年向け）Q9「WEB学習システムの経験」で日常的にしている及びときどきしているの割合の合計（学部別） 	<ul style="list-style-type: none"> 利用率45%以上 	
	④淑徳大学研究倫理規程の趣旨に則って研究倫理教育を推進し、個別審査を実施する。	8-41	結果	<ul style="list-style-type: none"> 公的研究費に係るコンプライアンス研修実施、参加率 	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス研修：年1回以上、教員参加率100%（維持目標） 	
		8-42	結果	<ul style="list-style-type: none"> 教員に対する研究倫理教育の実施、参加率 	<ul style="list-style-type: none"> 研究倫理教育（教員）：年1回以上、参加率100%（維持目標） 	<ul style="list-style-type: none"> 教員参加率：各回の説明会参加者数（欠席時の課題提出等含む）／各回の説明会ごとの専任教員数

組織レベル	取組主体		2022年度	
			指標(結果)・取組	達成度*
キャンパス	千葉	総務部	必要量の目安がある備蓄品のうち、水は必要量の32.0%、主食は必要量の100%、毛布は必要量の61.7%をそれぞれ確保できている。その他、トイレトペーパーや乾電池等、確保できていない備蓄品も一部ある。	C
	千葉第二	キャンパス安全対策本部(事務部長)	80%程度、防災上における3日間の食糧(推奨)は確保できていない。	B
	埼玉	キャンパス安全対策実施本部	70%程度。防災上における3日間の食糧(推奨)は確保できていない。なお今年度に期限を迎える食糧について入替を行った。	B
	東京	総務	100% 昨年作成の災害備蓄品リストに基づき、今年度に期限を迎える備蓄品について入替を行った。	A
学部	総合福祉	教務委員会 学生厚生委員会 教学委員会	新入生オリエンテーションでSNSについてリーフレットを配布しそれに基づき注意喚起を実施した(学生厚生委員会)。主に1年生は、新年度オリエンテーションおよび必修科目「情報処理法」で、情報セキュリティと情報倫理について、全授業回のうち1回分学んだ(教務委員会)。	S
	コミュニティ政策	教学委員会 学生厚生委員会	新入生オリエンテーションでSNSについてリーフレットを配布しそれに基づき注意喚起を実施した(学生厚生委員会)。主に1年生は、新年度オリエンテーションおよび必修科目「情報処理法」で、情報セキュリティと情報倫理について、全授業回のうち1回分学んだ(教学委員会)。	S
	看護栄養	千葉第二ネット委員会、(教務委員会)	新年度オリエンテーション、看護学科実習科目においてSNS使用に関する説明を実施した。栄養学科の実習においてもその特性に沿ったSNS使用に関する説明が、今後必要であると考えられる(情報(倫理)教育担当)。	S
	経営	経営学科 観光経営学科	SNS使用に関する新入生オリエンテーションを実施。また、情報倫理教育は全教員が全ての演習で実施(100%達成)。新年度ならびに新入生の情報倫理に関する周知は徹底して初回に実施した。	S
	教育	こども教育学科	SNSへの写真掲載に関する注意など、入門セミナー、キャリアデザイン、各種実習事前指導などで実施。	S
	人文	教学委員会	2回。情報系授業および正課外クラスアワーにて実施。メディアリテラシーの基本を周知。	S
キャンパス	千葉	図書館	総合福祉学部は24.6%、コミュニティ政策学部は34.9%、2学部合計で26.4%であった。	D
	千葉第二	図書室運営委員会	利用率90.3%	S
	埼玉	図書館運営委員会	学修等行動調査結果に基づく利用率：経営学科56.8%、観光経営学科53.7%、こども教育学科69.7%。館外PC貸出し利用が増加しており、図書館以外のスペースもラーニングコモンス化している。	B
	東京	教学委員会	37.3% 感染症対策により、人数制限や長時間の利用禁止などの制限を設けた。	※
キャンパス	千葉	各キャンパス該当委員会	総合福祉学部は19.6%、コミュニティ政策学部は18.9%、2学部合計で19.5%であった。 なお総合福祉学部では、社会福祉31.9%、教育福祉12.6%、実践心理5.6%と、学科により差が出ている。	D
	千葉第二	看護学科、栄養学科 看護学修支援委員会、 栄養学修支援委員会	(看護学科) 授業および、事前・事後学習において積極的活用を勧めた。利用率60.6% (看護：学修支援委員会) 授業や事前・事後課題でWeb学習システムを利用した課題の提示などを積極的に実施し、「日常的に利用している」14.7%、「ときどき利用している」53.7%で利用率は68.4%であった。 (栄養学科) e-learning利用98.9%(全学年合計)。授業課題や試験で利用した。遠隔授業により全体的にGoogleClassroom利用が活性化した。	S
	埼玉	教務委員会	24.2%	B
	東京	教学委員会	16.7%。東京キャンパスには該当しない。	—
大学	教育研究支援センター		1回 100%	S
大学	教育研究支援センター		1回 100%	S

*達成度の評価方法は結果目標はS～D、行動目標は優・良・可・不可。なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実施できていない場合は※とする。

大学基準	実現目標	成果指標			備考	
		No	種類	成果指標・データ定義		3年後の指標
9. 社会連携・社会貢献	①公的機関、企業等との連携により社会貢献活動を推進する。	9-11	結果	●協定に基づく公的機関、企業等との連携による社会貢献の事業数	●事業数5件	●一般的なボランティアも含む
		9-12			●ボランティア活動実績を1件以上上げる	
					●事業数5件	
		●事業数7件(大項目) 小項目では約29件				
	9-21	行動	●地域住民や卒業生に向けた公開講座、リカレント講座の実施	●公開講座、リカレント講座の実施	●授業公開も含む	
	9-22	結果	●社会人履修証明プログラムの履修証明書交付人数(大学単位)	●交付人数10枚以上/年(大学全体)		
9-31	行動	●支援プログラムの整備・充実	●支援プログラムの確立			
10. 大学運営・財務	①大学の理念・目的及びそれに基づく将来を見据えた計画等を実現するために必要な財務基盤・予算配分を確立する。	10-11	結果	●財務比率(基本金組入前当年度収支差額比率、教育研究費比率、管理経費比率、人件費比率)	●基本金組入前前年度収支差額比率5%以上の安定的確保(教育研究費比率30%以上、管理経費比率10%、人件費比率50%未満)	達成度は以下とする。Sが5%以上、Aが3%以上～5%未満、Bが1%以上～3%未満、Cが0%以上～1%未満、Dが0%未満
	②大学運営を適切かつ効果的に行うために、事務職員及び教員の意欲と資質の向上を図る。	10-21	行動	●目的別SDの開催数	●SD開催数年2回以上	●大学特別研修会を除く
		10-22	結果	●SD教職員参加率	●参加率100%(維持目標)	

組織レベル	取組主体		2022年度	
			指標(結果)・取組	達成度*
大学	大学地域連携センター		受託事業4件(千葉市1件、酒々井町1件、SM協会2件) 高大・大学連携事業3件(大正大学、京都文教大学、埼玉工業大)	S
キャンパス	千葉	ボランティアセンター	<ul style="list-style-type: none"> 一般ボランティア活動参加者412名(2019年度は456名) 災害支援ボランティア活動参加者36名(2019年度は123名) 	A
	千葉第二	地域連携委員会	<ul style="list-style-type: none"> 6件の要請に参加対応(参加率100%)し、教員によるボランティア活動では、4事業で学生ボランティアが参加した。新規に2件の活動の開拓となった。 松ヶ丘中学校、千葉南高校を対象に図書館開放ウィークを開催した。 企業との社会貢献は2件実施した。 千葉南高校の高大連携事業を1回実施した。 	S
	埼玉	広報・地域連携委員会	<ul style="list-style-type: none"> 子ども大学 3件、全て実施。 みよし祭り、みずほ台祭りは実施できず、また、鶴瀬よさこい祭りは廃止が決定、学生ボランティアは参加できず。 教育学部関連の学習ボランティアはほぼ例年通りの実施。延べ146人以上。3月6日現在未集計分有。 経営学部のボランティア活動、上記近隣自治体をイベントを除いて実施。集計は、前期25名。後期分、3月6日現在で未集計。 横瀬町との連携事業 学生23名参加。 不可抗力を除けば、かなりの率で連携事業(ボランティア活動を含む)が達成できている。 新たに片品村、只見町、釜石市と大学が連携協定を結んだ。 	A
	東京	ボランティアセンター	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染防止対策に対応したボランティア活動のガイドラインをもとに、ボランティア活動を行った。 6件(共生体験プログラムのボランティア活動、講座などを、対面・オンラインによる実施、動画公開) 1件(板橋区共催) 「認知症サポーター養成講座」対面による開催、講座内容をWeb公開 1件(板橋区教育委員会) 「学習支援ボランティア説明会」参加学生(14名、板橋区への学習支援ボランティア登録9名) コロナで中止していた活動が再開し、活発な活動が展開できた。 	A
大学	大学地域連携センター 大学地域支援ボランティアセンター 地域連携委員会(学部)		(看護栄養学部) ボランティア講座の一部を公開講座として公開した。	良
大学	大学地域連携センター		履修証明プログラム履修証明書交付数：0件	D
大学学部	大学国際交流センター 学生厚生委員会		<ul style="list-style-type: none"> 国際交流担当者オンライン打合せを毎月実施し、各キャンパスの留学生支援体制を各キャンパスで共有した。 留学生交流会の開催： 千葉)5月6日(金)留学生交流会実施。学部生・大学院生の15名参加。アイスブレイク、大学院生より大学院についての説明を聞いた。サンドウィッチ弁当を配布した。7月3日(日)に歌舞伎鑑賞ツアーを実施。29名が参加(日本人学生含む) 埼玉)12月13日(火)留学生交流会実施。学生(日本人含む)・教職員17名参加。ビンゴ大会を行った。 東京)5月27日(金)留学生と一人暮らし学生を集めた懇親会を実施。人文と短期大学部と約30名参加。食事とレクリエーションを行った。 	A
大学学部	大学事務部 キャンパス事務局		基本金組入前当年度収支差額比率：8.3% 教育研究経費比率：36.4% 管理経費比率：13.2% 人件費比率：43.5%	S
キャンパス	千葉	教育向上委員会	2回実施。9月10日(土)と3月16日(木)テーマ「内部質保証～「学生のため」への転換」	優
	千葉第二	事務部長	2023年3月16日SD研修会を実施	可
	埼玉	総務	2023年3月7日SD研修会を実施	可
	東京	学部	SD研修2回実施(5月10日および2月28日)	優
キャンパス	千葉	教育向上委員会	9月10日(土)100%、3月16日(土)93%	A
	千葉第二	事務部長	2023年3月16日にSD研修会を実施し、欠席者には、後日動画視聴により参加率100%	S
	埼玉	総務	専任教職員全員を対象とし参加率100%	S
	東京	学部	SD研修2回100%	S

*達成度の評価方法は結果目標はS～D、行動目標は優・良・可・不可。なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実施できていない場合は※とする。

外部評価

淑徳大学は、自己点検・評価の内容及び活動に関する事項について、外部評価委員（（１）教育機関の教職員、（２）地方公共団体、地域団体あるいは地元産業界等の関係者、（３）その他の有識者）数名で構成された外部評価委員会による外部評価を毎年度実施しています。

2022年度の外部評価委員会 報告

I. 日時及び場所

日 時：2023年2月4日（土） 10時00分～11時30分

場 所：Zoom（各キャンパス及び外部評価委員指定の場所等）

II. 議題及び報告内容

- （１）2021年度外部評価への対応結果について
- （２）3つの方針に照らした取組（教育方法及び教育評価）の適切性について
 - ・全学共通基礎教育科目「S-BASIC」について
- （３）3つの方針に照らした取組（入学者選抜、その他）の適切性について
 - ・リーダーシップ育成型選抜試験について
 - ・地域連携協定を結んだ自治体との協力について

III. 外部評価委員による公表

報告に基づき、大学のカリキュラムポリシーに基づく教育方法及び教育評価について、よくできており、全体と通しての評価点は「5 非常に評価できる」とすると報告がなされた。